

さとう健司



貫くのは現場主義

皆様方の温かいご支援を賜り、県議会議員として二期目の活動をスタートしました。心より感謝申し上げますとともに、今後ともご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

◆平成27年6月県議会◆

新生美術館の着実な 整備に向けて



Q 国宝や重要文化財の公開承認施設の認定に向けた文化庁との協議の状況について。

A (知事) 新生美術館では、これまで琵琶湖文化館が収蔵してきた貴重な仏教美術等、文化財を適切に収蔵、展示することが不可欠。設計の検討にあたり、今年5月から設計者も交えて文化庁との協議を進めている。今後も開館まで継続的に協議や情報交換を行い、公開承認施設として文化庁から確実に認定されるようにしていく。

Q 8000点に上る琵琶湖文化館の収蔵品の移転に向けた取り組みについて。

A (教育長) 収蔵品の整理調査を行い、修理を行った上で輸送する必要がある。寄託品については所有者への説明を丁寧に行いながら、新生美術館の開館スケジュールに合わせて移転作業を計画的に進めていく。

Q 修理費用を含めた琵琶湖文化館の機能移転に要する現時点での費用は？

A (教育長) 現時点で、約6億円と見込んでいる。

Q 修理しなければ移転できない収蔵品については、寄託している所有者に対する何らかの支援も必要だと考えるが？

A (教育長) 損傷や経年劣化により輸送に耐えない収蔵品の修理については、多額の費用がかかることから、寄託品の修理のあり方について一定のルールを検討し、収蔵品の移転が確実に進むように努めていく。

県道大津信楽線の 完成の遅れが明らかに

Q 県道大津信楽線の付替工事の完了が遅れるようだが、これまでの説明を踏まえてどのように責任を感じているのか？

A (知事) 県道大津信楽線の付替工事については、供用目標を平成28年度と説明していたが、事業の進捗が遅れが生じていることから、平成28年度末の完了は難しいと判断した。平成30年度末を目標に残る用地取得や工事の進捗に努めていく。地元の皆様は今しばらくご不便をおかけすることについてお詫び申し上げます。

Q 地元に対してどのように説明し、理解を求めるのか？

A (知事) 今後、地域の協議会の場等において地元の皆様に対して丁寧な説明しながら、理解を求めていく。

Q 県道大津信楽線の付替工事が完成しても、高低差が生じて県道栗東信楽線との乗り入れができないが、どのように対応するのか？

A (知事) 県道大津信楽線の付替として整備中の新たな県道と現在の県道栗東信楽線は、ご指摘の通り、約26メートルの高低差があり、相互に乗り入れができない状況になっている。新たな付替県道との接続についてはダム検証の結果を待つて検討し、判断していく。

特別委員会の活動から

今年度、スポーツ振興特別委員会委員長に就任しました。平成36年に開催される国民体育大会・全国障害者スポーツ大会に向けた取り組みについて協議することにも、さらなるスポーツ振興や県民の健康づくりのために議員提案による(仮称)滋賀県スポーツ振興条例の制定を目指して、検討を進めています。



皆様のご意見をぜひお聞かせください sato@satoken.net

〒520-2153 大津市一里山1丁目1-13-1305